

● 草の根パートナー型

平成15年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	フィジー
2. 事業名	持続的な農村開発のための人材育成パイロットプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>フィジーでは若年層の失業率が高く社会不安の一因である。また、農村青年の起業や勤労に対するオーナーシップ欠如が蔓延している。主要産業のサトウキビが2008年EUの保護撤廃で衰退必至、代替の持続的な農村開発が急務となっている。輸入農産物の流入が国内農業発展を阻む要因の一つになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市部と農村部の経済格差が年々広がっている。 フィジーは一般に農業技術・農業経営意欲が低い農村部の土地は広く、適切な技術指導と経営力向上のエンパワーメントがあれば飛躍の可能性が高い。 人材育成を担う国立青年研修センターの予算/指導力不足・他セクターとの連携不足。 オイスカと国立青年研修センターは長年の協力から信頼関係にあり事業の趣旨にあった活動が容易。
4. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 研修を終え有用な知識・技術を習得した青年男女の経済的自立率の向上。 関係機関の連携による農村青年人材育成システムの確立・維持。
5. 対象地域	フィジー国内の農村地域11の県 (Ba, Nadroga/Navosa, Serua, Namosi, Naitasiri, Rewa, Tailevu, Ra, Bua, Macuata, Cakaudrove から選モデル地域 (郡))。
6. 受益者層	研修センター等指導員22人、農村出身の青年男女 (研修による直接の裨益者135人)、農村部居住者約10,000人
7. 活動及び期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> 有機的な選考-研修-フォローアップシステムの確立 選考作業における透明性・公平性の確保並びに潜在能力/やる気を有する人材の選考力向上 【指標】人材育成システム改善委員会の成立・ベースライン調査とプロジェクトモニタリング並びに評価の比較 研修センター自体の自立システム確立 【指標】Fund Raising Project での収支バランス向上/研修センタースタッフ自身による助成プログラム申請実施/ベースライン調査とプロジェクトモニタリング並びに評価の比較 各研修の内容充実と研修者の研修成果向上 【指標】指導員の新科目授業実施/研修修了者帰村時の満足度調査評価向上/ベースライン調査とプロジェクトモニタリング並びに評価の比較 フォローアップ体制の確立 【指標】研修修了者帰村後の活動成果評価/人材育成システム改善委員会によるフォローアップ活動の評価
8. 実施期間	2004年7月～2007年6月 (3年間)
9. 事業費	第一年度契約金額：16,926千円 (精算金額：16,926千円) 第二年度契約金額：14,033千円
10. 事業の実施体制	事業に関係するステークホルダーを集めた人材育成システム改善委員会 (仮称) を作り、事業を実施していく。同委員会の構成メンバーはプロジェクトマネージャー (郡司)、国立青年研修センターの所長の他、青年雇用機会スポーツ省局長、シガトカ町長、農業省・労働省の担当者・オイスカフィジー研修生OB会会長などを予定。活動の主な舞台は国立青年研修センターになるため同所長以下研修センター職員のオーナーシップを引き出し、調整・補佐する役割としてオイスカフィジー開発団 (代表：郡司正彦=プロジェクトマネージャー) が動く。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	財団法人 オイスカ
2. 活動内容	アジア太平洋を中心に農業などを通じた人材育成活動と、緑化活動などの環境教育活動
3. 対象国との関係、協力実績	フィジー政府青年雇用機会スポーツ省と活動に関する協約を締結。1990年から農業研修を行っており、修了生は258名を数える。また、山岳部・海岸部における植林と地域住民への環境教育も実施している。